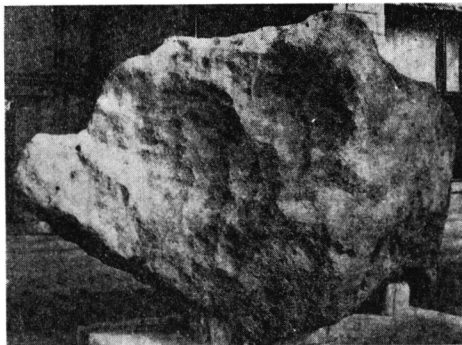


- | | |
|---|---|
| <p>られるまでに細菌を含む水が浸入したかも知れない。</p> <p>(6) 隕石中の細菌は、地球のものと全く同じである。</p> | <p>隕石もある。</p> <p>(6) 他の世界で地球と同じ生物が発達することも可能である。</p> |
|---|---|

謎の隕石



今年の彗星だより

今1933年になつて、既に2個の彗星が発見された。

1933 a. (ペルテヤ彗星) 去る二月16日、米國 Ohio 州 Delphos に居る L. C. Peltier 氏が北天セフェ座 δ 星の東北に発見したもので、光輝は 8^m. 非常な速度で東南へ急行してゐる。発見當時は地球に近く、約1/2單位であつたが、三月に入つて漸次遠ざかり、光も稍々衰へつゝある。

1933 b. “井ンネケ彗星” 去る三月24日早暁、獨國 Bergedorf 天文臺の A. Wachmann 氏が蛇遣ひ座の α β 兩星の間で寫眞發見に成功したもので、之れは此の星の第13回の出現で、年初から待望され、大天文臺で搜索されてゐたものである。此の發見により、今年の近日點通過は五月19日であることが確かめられた。軌道要素は、チェコ國の V. Guth 氏 [A. N. 5900] と英國の A. C. D. Crommelin 氏 [B. A. A. Handbook, 1933] との研究結果が發表されてあるが、觀測上からは後者のものが良さそうである。

此の外、Schwassmann-Wachmann (1925 II), Geddes (1932 g), Borrelly (1932 i), Dodwell (1932 n), Faye (1932 l) 等の彗星が今尚ほ觀測されてゐる。詳細は中村急報にあり。